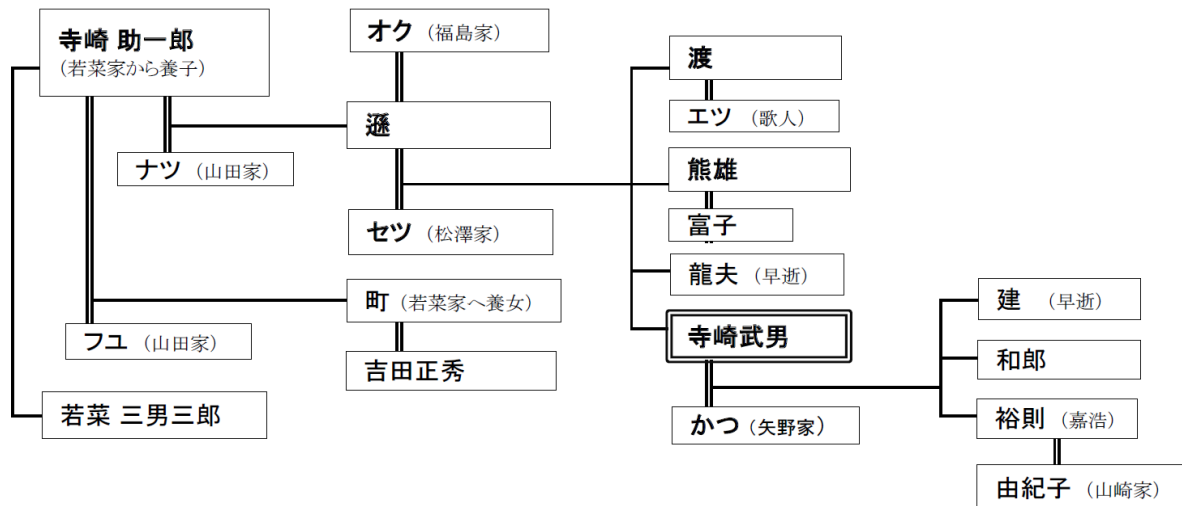


寺崎家のファミリーヒストリー（家系図）



寺崎助一郎（祖父） 1830 頃？-1863
若菜家より養子。江戸城西御丸附御賄組頭。長崎奉行支配調役。病院取建掛として、医師ボンベと協議し西洋式病院を建設。英国の外交官オールコックら外国要人の通詞（通訳）も務めた。実弟の若菜三男三郎（みおさぶろう）は米国総領事ハリスの通詞。

寺崎 遜（父） 1852-1903
長崎の父助一郎のもとで学んだ後、江戸神田の昌平黉（昌平坂学問所）に学び横浜の修文館で英語を修める。電気通信創業期の 1872 年に英国留学し、電信修技校教授。義弟の吉田正秀らとともに日本語のモールス信号を考案。工部省技手、宮内省や文部省などに勤務。伏見宮や山縣有朋らの洋行の随員。1899 年に山縣内閣総理大臣秘書官となり、翌年引退。マラリア熱病にて逝去。従六位叙勲。「とおる」とよぶ通称名もある。

寺崎セツ（母） 1846 頃-1935
松澤重左衛門の長女。実家からは政治家、弁護士、新聞切抜通信社社長などを輩出。甥の松澤一鶴（武男の従弟）は、第一高等学校・東京帝国大学の競泳選手で極東大会金メダリスト・五輪監督。

吉田正秀（叔父） 1850-1930
旧幕臣、工部省電信局技手、逓信省電務局長。電気通信創業期に活躍し、寺崎遜らと日本語のモールス信号を考案。妻の町は寺崎遜の妹。

寺崎 渡（長兄） 1876-1963
農学博士。第一高校・東京帝国大学大学院林学科在学中より農商務省山林局農林技師。渡欧し林業研究。高等数学を林業に応用、「寺崎式間伐技術」を考案し、林学の最高権威である日本農学賞受賞。自然征服思想のヨーロッパ林学に警鐘を鳴らし、日本古来の樹木愛護精神を提唱。妻のエツ（悦子）は村田一郎の三女、歌人。

寺崎熊雄（次兄） 1878 頃-1919
弁護士。第一高等学校・東京帝国大学法科・同大学院を卒業。兵庫県職を経て、弁護士登録し、草鹿法律事務所に勤務。神戸市弁護士会役員。

寺崎武男（本人） 1883-1967
洋画家。独逸学協会中学・東京美術学校卒業。イタリア留学で絵画諸技法を研究。妻カツは船橋の矢野家。長男建は 3 歳で早逝。

寺崎和郎（二男） 1927-1999
安房水産学校・東京工業大学卒業。エンジニア。青山学院大学理工学部教授。

寺崎裕則（三男）（嘉浩） 1933-2023
歌舞伎とオペラの演出家。NPO 法人日本オペレッタ協会名誉会長。8 歳から館山に住み、安房高校・学習院大学経済学部卒業。文学座を経て、三島由紀夫らと劇団 NLT・劇団浪漫劇場を創設。文化庁研修員としてベルリンで演出を学ぶ。ウィーン州・ウィーン市より「金の栄誉勲章」授与。音楽之友社賞・トヨタ音楽賞受賞。